

2025年 大阪・関西万博政府出展事業 検討状況について

2024年1月

経済産業省

- 1. 大阪・関西万博の進捗状況**
- 2. 日本館の基本計画**
- 3. 建築に関する検討状況**
- 4. 展示・運営に関する検討状況**
- 5. 広報・バーチャルに関する検討状況**
- 6. 今後のスケジュール**

1-1. 開催の意義

- ポストコロナの新たな世界、次世代技術・社会システムが形作る未来社会の風景観を示し、我が国のイノベーションの可能性を世界に発信していく場。コンセプトは「未来社会の実験場」。
- 新型コロナを経験し、ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫が続く中、世界では改めて「いのち」の重みについて強く認識。世界の平和と繁栄に繋がるよう「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる。
- 開幕500日前の2023年11月30日より前売入場チケットの販売を開始。

名 称：2025年日本国際博覧会
(略称：大阪・関西万博)

開催場所：夢洲

開催期間：2025年4月13日～10月13日(184日間)

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

Designing Future Society for Our Lives

コンセプト：未来社会の実験場

想定来場者数：約2,820万人(うち、外国人350万人)

入場チケット一覧



項目	チケット名	概要	大人 (満18歳以上)	中人 (満12-17歳)	小人 (満4-11歳)
前売チケット	開幕券	4月13日から4月26日まで 1回入場可	4,000円	2,200円	1,000円
	前期券	4月13日から7月18日まで 1回入場可	5,000円	3,000円	1,200円
	超早割一日券 (23年11月30日～24年10月6日まで販売)	会期中いつでも1回入場可	6,000円	3,500円	1,500円
	早割一日券 (24年10月7日～25年4月12日まで販売)		6,700円	3,700円	1,700円
	夏パス	7月19日から8月31日まで 11時以降何度でも入場可	12,000円	7,000円	3,000円
	通期パス	4月13日から10月3日まで 11時以降何度でも入場可	30,000円	17,000円	7,000円
会期中 販売チケット	特別割引券 (会期終了まで販売)	障がい者手帳等をお持ちの方及び 同伴者1名が購入可能で、 会期中いつでも1回入場可	3,700円	2,000円	1,000円
	一日券	会期中いつでも1回入場可	7,500円	4,200円	1,800円
	平日券	土日祝を除く 平日11時以降1回入場可	6,000円	3,500円	1,500円
	夜間券	会期中いつでも 17時以降1回入場可	3,700円	2,000円	1,000円

【参考】500日前イベント

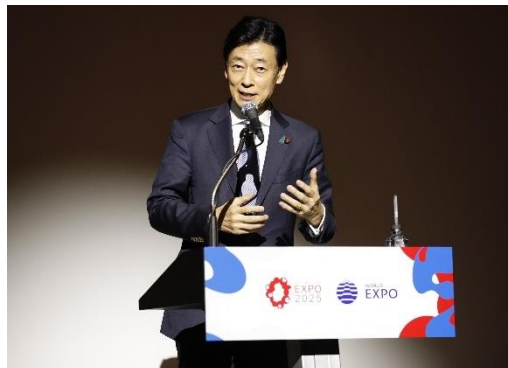
- 開幕500日前である2023年11月30日に、入場チケットの前売り販売が開始され、機運醸成を目的に東京、名古屋、大阪で500日前イベントが開催された。
- 東京のイベントでは、万博の開催意義を発信するとともに、販売を開始した入場チケットの購入の仕方を実演。多くのメディアが取材。東京タワーやスカイツリーの特別ライティングも実施。

＜東京のイベントの様子＞

岸田総理大臣（ビデオメッセージ）



西村元経産大臣ご挨拶



スペシャルサポーター「FANTASTICS」



スカイツリー



東京タワー



＜関連イベント・展示等＞

名古屋駅



品川駅



大阪駅



1 - 2. 世界の期待

- 大阪・関西万博への公式参加表明国・地域、国際機関は、160か国・地域、9国際機関（2023年11月14日時点公表ベース）。
- 2023年11月14日・15日に大阪で開催された参加国会合（IPM:International Participants Meeting)には、約150か国・7国際機関から約500名が参加。日本に対して、ホスト国としての世界への発信や万博のテーマに沿った各国の出展への後押しに強い期待が寄せられた。

ケルケンツェス博覧会国際事務局(BIE)事務局長の 記者会見における発言

- 非常にポジティブな形で前に進んでいる。時間通りに進んでいる。間違いなく参加者は2025年4月に向けて準備を進めていると強く思っている。
- 各国は順調に建設準備を進めていると思っている。
- 延期についてはそういった選択肢は無いと思う。
（中略）今回の万博を延期することは考えていない。より重要な理由として、全て今オントラックで進んでいるので、きちんと準備が整い、予定通り開幕できると信じている。



参加者代表集合写真（11月14日）

※参加者のアイデアから「2025年4月に会いましょう」という
バナーを作成して、メッセージを発信

1 - 3. パビリオン展示

- パビリオン展示は、①公式参加パビリオン、②テーマ事業パビリオン、③日本政府館、④自治体館、⑤企業パビリオンの5種類。

① 公式参加パビリオン

- ✓ 万博に参加する各国政府・国際機関が企画するパビリオン

② テーマ事業パビリオン

- ✓ 8人のテーマプロデューサーが企画するパビリオン
- ✓ 「いのち」に関連するテーマをそれぞれ設定し、企画

③ 日本政府館

- ✓ 日本政府（経産省）が企画するパビリオン
- ✓ 「いのちと、いのちの、あいだに」のテーマの下、企画を検討中

④ 自治体館

- ✓ 自治体等が企画するパビリオン
- ✓ 大阪府・市が「大阪館」、関西広域連合が「関西パビリオン」を出展予定

⑤ 民間パビリオン

- ✓ 民間企業等が自由に企画するパビリオン
- ✓ 万博の「華」となるパビリオン

《各パビリオンの配置案》



【参考】民間パビリオン

- 13者が出展予定。2023年10月にパビリオン構想を公表。

①日本電信電話株式会社 「NTT Pavilion "Natural"」（仮称）」



テーマは「Natural 生命とITのくあいだ」で、コンセプトは「拡張するパビリオン」、「生きているパビリオン」、「一緒につくるパビリオン」、「循環するパビリオン」。リアル・バーチャルで万博を訪れる皆さまにワクワクするような未来、社会課題への気づきを感じていただくことをめざす。

②電気事業連合会「電力館 可能性のタマゴたち」



テーマは「エネルギーの可能性で未来を切り開き、いのち輝く社会の実現へ」、コンセプトは「可能性のタマゴ」。エネルギーのたくさんの“可能性のタマゴ”と、それらが集まることで開かれる未来を体感いただき、共にいのち輝く未来へ進んでいくきっかけとなることをめざす。

③住友 EXPO2025 推進委員会「住友館」



未来をつくる子どもたちとすべての人に、リアルとデジタルを駆使した、ここにしかない森での体験を提供する。パビリオン建設にあたっては、住友グループが全国に保有する森の木材を全面的に活用するなど、いろいろなアイデアや知恵を盛り込む。

④パナソニックホールディングス（株）「ノモの国」

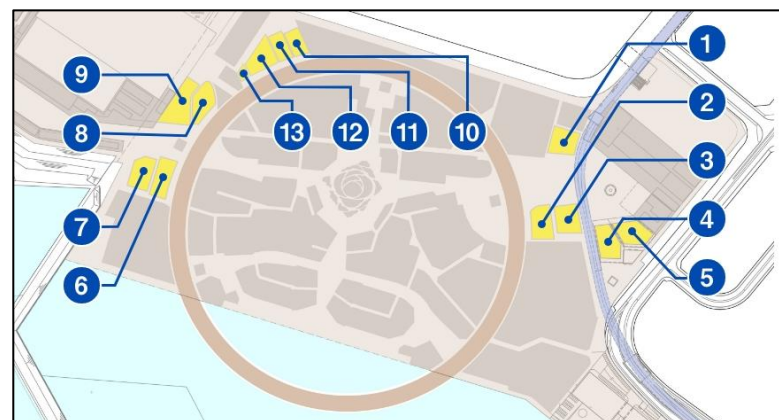


コンセプトは、“解き放て。こことからだ。とじぶんとせかい。”。α世代の子どもたちに、「ノモの国」と名づけた体験を通じて、自身の秘められた可能性「天分」に気付き、未来社会に向けて希望を抱いてもらえるようなパビリオンをめざす。

⑤三菱大阪・関西万博総合委員会「三菱未来館」



基本コンセプトを「いのち輝く地球を未来に繋ぐ」と定め、「いのちの始まり、いのちの未来」「いのちの尊さ」「いのちの出会いと共に生きる奇跡」といった様々な思いや不思議を共有頂き、来館者お一人おひとりに、いのちと未来を想像する時間と空間を体験頂けるようなパビリオンをめざす。



【参考】民間パビリオン

⑥ 吉本興業ホールディングス（株） 「（仮称）よしもとパビリオン」



パビリオンのテーマは「Waraii Myraii（ワライミライ）」。
テーマの“waraii”が世界語となることを夢見て、3つの「世界中の子どもたち」「笑い」「つながる」のキーワードをもとに、「分断」と「対立」の世の中に、子どもたちが初対面でも笑い合うことで国境を越えてつながることができる「笑い」のチカラを、世界の子どもたちと一緒に示していく。

⑨ （株）バンダイナムコホールディングス 「ガンダムパビリオン（仮称）」



「機動戦士ガンダム」をテーマに未来社会の課題解決に向けた実証実験や、人と人のつながりによる「共創」の実現、リアルとヴァーチャルの連動した未来体験を提供し、ガンダムが示す可能性を感じていただけるパビリオンをめざす。

⑦ （株）パソナグループ「PASONA Natureverse」

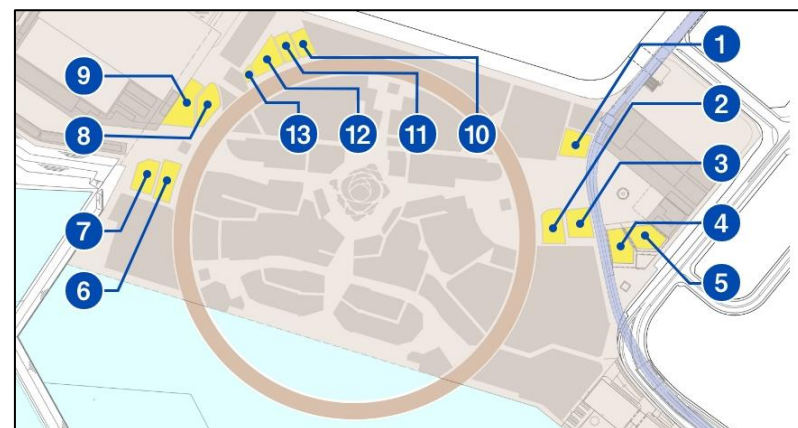


パビリオンでの体験を通じて、世界中のすべての人たちが、いのちを尊び、いのちへの感謝で包まれる世界。多くの人の「ありがとう」が響き合う世界。
パビリオン名の「Natureverse（Nature×Universe）」を共に創る、創造者になってほしいという想いが込められている。

⑧ 特定非営利活動法人ゼリ・ジャパン 「BLUE OCEAN（ブルーオーシャン）」



「海の蘇生」をテーマに掲げ、来場者の皆様に今までにない体験を提供するパビリオン。
建築設計を坂茂氏、展示コンテンツを株式会社日本デザインセンターの原研哉氏・原デザイン研究所が担当する。



【参考】民間パビリオン

⑩玉山デジタルテック（株）「TECH WORLD」



台湾独自の技術(テクノロジー)、智能(スマートソリューション)、文化(カルチャー)、連携(パートナーシップ)をコンセプトに「都市×地方、大自然、生命力」の三大エリアを設け、最新デジタル技術により人々の視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚と感性の「六感」に響く感動をお届けするパビリオン。

⑪一般社団法人日本ガス協会 「ガスパビリオン おばけワンダーランド」



来場者、特に子どもたちの記憶に残り、豊かな心をはぐむ原体験となるような「来場者参加型エンターテインメントパビリオン」をめざす。
カーボンニュートラルという地球規模の課題に対し、ともに考え、いのち輝く未来社会へ一歩を踏み出すパビリオン。

⑫飯田グループホールディングス（株） 「飯田グループ×大阪公立大学 共同出展館」

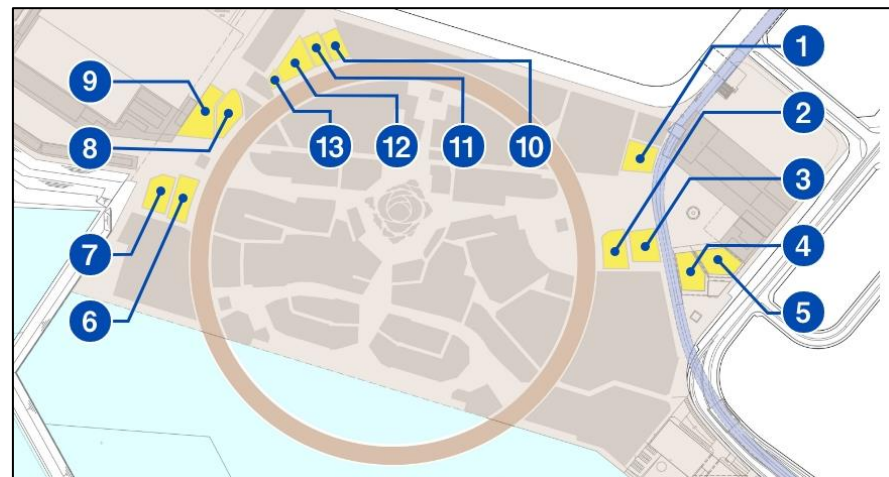


「ただいま／TADAIMA」というキーワードを軸に、大阪公立大学との共同研究テーマである「ウエルネス」、「人工光合成」技術を活用した「いのち輝く未来社会」を、時空を超えるナビゲーターのメッセージとともに体感していただけるパビリオン。

⑬一般社団法人大阪外食産業協会 「新・天下の台所～食博覧会・大阪2025～（仮称）」



おいしい！だけじゃない。ココロとカラダが、そして地球が喜ぶ未来の「食」。ここでしか食べられない“食”が集まる、世界でただひとつのフード・エンターテインメント。
グローバル・ツーリズムをリードする国際都市、“食都・大阪”の未来の一端を体験できるパビリオン。



1－4．大阪・関西万博に関連する国の費用について

【大阪・関西万博の準備等に直接資する事業】

(単位:億円)

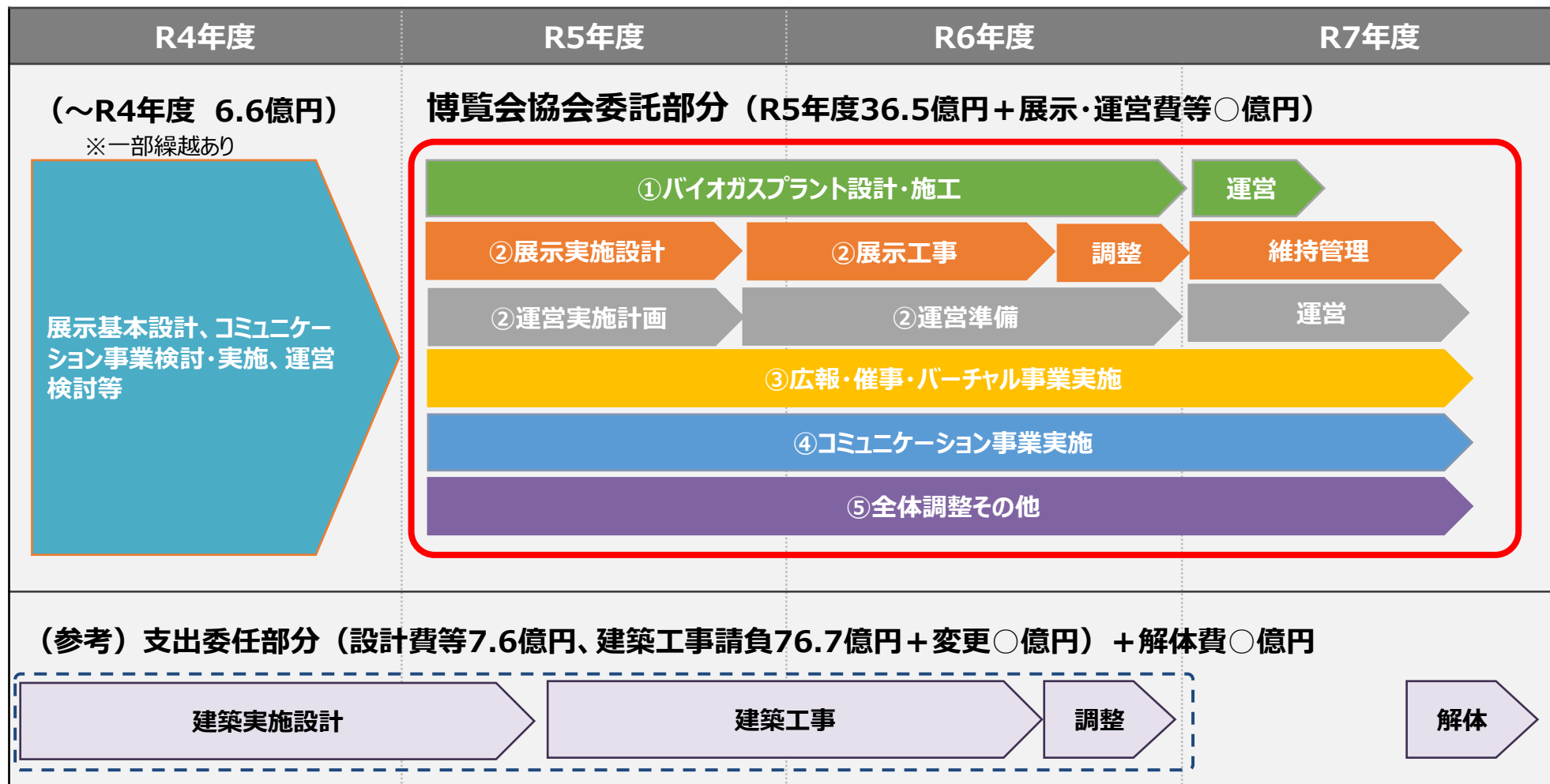
	今後も含めた国の費用総額の見通し	これまでの国の予算への計上状況		
		～令和5年度 当初予算	令和5年度 補正予算	計
① 博覧会協会による会場建設費 (国費負担分) (経済産業省)	最大783億円 (最大2350億円を国、大阪府・市、経済界で1/3ずつ負担)	121	510	631
② 日本政府館の建設等のための 費用 (経済産業省)	最大360億円	92	171	263
③ 途上国等の出展支援のための 費用 (経済産業省・外務省)	約240億円 (主催国として博覧会国際事務局 (BIE) に対して約束した日本側の途上国支援費用の総額) ※1	9	92	101
④ 会場内の安全確保に万全を 期するための費用 (経済産業省)	約199億円	0	4	4
⑤ 全国的な機運醸成等に要する 費用	約38億円+今後の費用	5	33	38

※1 BIEに対して約束した日本側の途上国支援費用の総額「約240億円」の内数としては、博覧会協会による会場建設費（国費負担は1/3）のうち約50億円もカウントされる。
一方で、③には、途上国支援費用のほか国連の出展支援のための費用として約11億円を見込んでいるところ、「途上国等（途上国及び国連）の出展支援のための費用」として、約240億円を費用総額の見通しとしている。

※2 計数は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しないものがある。

1－5．日本政府館（日本館）予算の執行

- 日本館の予算は、日本館の設計・建築の費用と展示・運営等の費用で構成。
- このうち、設計・建設の費用は、法令に基づき国土交通省近畿地方整備局に支出委任。展示・運営等の費用は、運営実施計画を策定する令和5年度から、一体的運営を見据え、博覧会協会に委託。



1 - 6. 日本館予算と執行の関係について

- **令和5年度の日本館出展準備業務（支出委任部分以外）は、博覧会協会に委託**を行い執行中。事業の核となる企画立案は委託事業者が担いながら、企画に基づく現場での展示制作・検証、起工式等の行催事の実施やそれに関わる広報対応等は、民間の技術・知見を活用しながら効率的に業務を遂行するため、事業者へ再委託。なお、支出額は、事業終了時の精算により確定。

■令和5年度（執行中）

※令和5年12月時点の契約状況

事業名	契約先	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式等
大阪・関西万博日本政府出展事業	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会	日本館の展示・行催事・広報・運営等の各種出展準備業務	3653	随意契約（その他）

再委託



項目	事業名	再委託先	業務概要	契約額 (百万円)
①	「日本政府館」施設整備事業（バイオガス発電プラント設計・施工等）	日立造船（株）	バイオガスプラント設計施工業務	998
②	「日本政府館」展示実施設計・運営実施計画等業務	日本館展示等コンソーシアム共同事業体	展示実施設計、一部展示工事への着手及び運営実施計画の策定	1533
③	「日本政府館」広報・催事・バーチャルパビリオン企画制作等業務	大日本印刷（株）	広報・バーチャルの計画策定、行催事の広報、バーチャル日本館の企画	60
④	「日本政府館」コミュニケーション企画制作等業務	（株）日本デザインセンター	日本館キービジュアル、キーコピーの制作、ティザーサイトの構築・運営	149
⑤	「日本政府館」建築設計と一体的に行う建築展示支援・調整等業務	（株）日建設計	展示総合設計、プロジェクト進捗管理業務	171
⑤	「日本政府館」CLT発注等業務	（一社）日本CLT協会	CLTの調達	372

【参考】国以外も含めた費用について

	国	自治体	民間企業	
会場内	【大阪・関西万博の準備等に直接資する事業に係る費用】 <ul style="list-style-type: none"> ・博覧会協会による会場建設費の1/3（国費負担分） 最大783億円 	【大阪・関西万博の準備等に直接資する事業に係る費用】 <ul style="list-style-type: none"> ・博覧会協会による会場建設費の1/3（大阪府・市負担分） 	【大阪・関西万博の準備等に直接資する事業に係る費用】 <ul style="list-style-type: none"> ・博覧会協会による会場建設費の1/3（民間負担分） 	最大2350億円 ⇒（国費負担は1/3）
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政府館の建設等のための費用 ・途上国等の出展支援のための費用 ・会場内の安全確保に万全を期するための費用 ・全国的な機運醸成等に要する費用 ⇒ 最大837億円 + α（全国的な機運醸成等）	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体パビリオン等 ・その他必要経費 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業パビリオン等 ・その他必要経費 	
	【誘致・登録に係る費用】 ⇒ 約27億円 <ul style="list-style-type: none"> ・誘致に要した費用 ・登録申請に要した費用 			
	【上記以外】 <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備計画に関係する施策 ⇒ 約9.7兆円の内数 ・アクションプランに登録された施策 ⇒ 約3.4兆円の内数 ・国際博覧会共通経費 ⇒ 約72億円の内数 （BIE負担金（5年間約0.4億円）、ドバイ国際博覧会への日本政府館の出展（約54億円）等を含む） 			

その他主体

- ・博覧会協会：会場内の運営費用（チケット収入・ライセンス収入等でまかなう） **約1160億円（素案）** ※国費負担なし
- ・参加国：出展に要する参加国が負担する費用

大阪・関西万博費用（経産省関係）に関する今後の対応について

大阪・関西万博の費用に関連して、経産大臣の直轄の下で、以下の対応を行う。

「万博費用（経済産業省関係）」の定期的・継続的な点検（外部専門家による確認）

博覧会協会から経済産業省に対して、**四半期毎**に、①経済産業省が国費により博覧会協会に補助・委託した事業に係る費用、及び②博覧会協会の運営費（国費負担なし）の執行状況について**費目毎に詳細な報告**を求めるとともに、経済産業省において**外部専門家（学識経験者、公認会計士、建設コンサルタント等）を交えた有識者委員会（「大阪・関西万博に関する進捗監視委員会（仮称）」を活用**しつつ、その**適切性を継続的に確認**する。

（⇒ 概算払をした経費については、きめ細やかに確認し、精算）

2. 日本館の基本計画

● 目指す来場者体験

テーマ： いのちと、いのちの、あいだに - Between Lives -

- ・ 来場者自らが、他のいのちとのつながりや循環の中で生かされている存在であり、地球といういのちの束の一部であることに気づく機会を提供。
- ・ 地球で起こっている持続可能性の問題を「自分たちのこと」として認識し、「炭素中立型の経済社会」や「循環型社会」といった未来社会の実現に向けたアクションを促す。

● 展示のコンセプト

(1) 循環（いのちのつながり）の体験

○ 日本館において一つの循環を創出し、象徴的な来場者体験を提供。

- ・ 二酸化炭素や廃棄物を循環に戻していく技術・仕組みを実装。
その結果、生み出されたものを来場者が食する等の体験を提供。

例：万博会場から出される生ゴミを利用したバイオガス発電、
カーボンリサイクル技術の活用、
バイオガス発電による電力を利用した藻類の栽培、
藻類等を加工し、来場者が食する等の機会を提供

(期待される効果)

- ✓ 二酸化炭素や廃棄物にも新たな活用方法・役割があるという認識の変化。
- ✓ 発展的に循環のサイクルをつないでいくことで持続可能で豊かな未来社会を構築していく可能性への気づき。

(2) 循環とともにある社会の実現に向けた要素の展示体験

○ 日本文化や技術、日本的な発想を手がかりに、以下の3つの要素に着目した展示体験を提供。

① 循環を見据えたものづくり

例：長く使い次に再生しやすく作るための考え方・技術の提示
(着物を最後まで使い切る工夫 等)。

② はかなく小さな生き物

例：石油代替等の分野で期待される微生物の活用の提示
(発酵文化、微生物の活動の可視化 等)。

③ 次のいのちへのリレー

例：日本文化の発展・継承(式年遷宮、伝統芸能 等)を振り返りつつ、
私たちがいかに知恵や社会を発展させ次世代に伝えていくかの問いかけ。

(期待される効果)

- ✓ 持続可能で豊かな未来に向けた気づきを得た来場者が、それぞれに具体的な行動を起こしていく。

3-1. 日本館の建築の状況

- 日本館は、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」をホスト国政府としてプレゼンテーションする拠点。日本が誇る循環型文化、最新のバイオマス技術、サーキュラーエコノミー、カーボンリサイクル技術を発信し、より良い未来社会を実現していくための気づきの場となることを目指す。
- 建築においては、日本館コンセプトを踏まえ、「いのちのリレー」「いのちのサイクル」を体現する円環状のパビリオンを設計。
- 令和5年7月20日付で清水建設株式会社と建築請負契約を締結。9月11日に起工式を実施後、9月12日より現場着工。

【日本館外観イメージ（昼景・夜景）】



建物概要

場所：大阪府大阪市此花区夢洲
敷地面積：12,950㎡
総建物面積：約11,360㎡

建築スケジュール

令和4年12月 実施設計
令和5年1月24日 入札公告
令和5年7月20日 建築請負契約締結

令和5年9月11日 起工式
令和5年9月12日 現場着工
令和7年2月末 完成

3 - 1. 日本館の建築の状況

- 9月12日より現場着工。掘削・基礎工事等の作業を実施。
- 今後、躯体工事・内外装・設備・外構工事を実施予定。



【参考】日本政府館（日本館）の起工式実施について

- 2023年9月11日（月）、日本政府館建設予定地にて起工式を開催。
- 中谷前経産副大臣、豊田前国交副大臣のほか、地元自治体や関係企業、政府出展事業検討委員など計70名に出席頂き、建築工事の安全と成功を祈念して鍬入れを行った。

【式次第】

開会の辞	経済産業省 商務・サービス審議官
主催者挨拶	中谷前経済産業副大臣 兼 前国際博覧会担当副大臣 ご挨拶
共催者挨拶	豊田前国土交通省副大臣 ご挨拶
来賓代表挨拶	鳥井政府出展事業検討会議座長（サントリーHD（株）副会長） ご挨拶
開催地自治体代表挨拶	吉村大阪府知事 ご挨拶
博覧会協会代表挨拶	石毛2025年日本国際博覧会協会事務総長 ご挨拶
祝辞	佐藤オオキ日本館総合プロデューサーより祝辞
鍬入れ	代表者による鍬入れセレモニー（挨拶登壇者及び建設事業者等）、フォトセッション
閉会の辞	国土交通省 近畿地方整備局長

鍬入れの様子

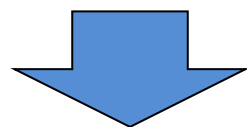


3－2．昨年度検討会議におけるご意見（建築）

【検討会議におけるご意見】

○建築

- ・資材の再利用ひとつをとっても、学校や公園等の身近なところにも活用することで万博の痕跡を残し、日常の中で感じられるようにすれば、レガシーの一部として印象づけられるのではないかな。
- ・日本は新しい事へ取り組む際、試しに一部だけ導入してみるという形式が多いが、例えばトイレなど、「性別関係なく使える共用仕様のもの」を追加設置するのではなく、「共用仕様のもの」のみの設置とする、つまり全てが共用（ジェンダーレス）など思い切った対応をすると、新しい日本を印象づけられるのではないかな。



【対応の方向性】

- ・日本館の内外装に用いる**CLTの再利用**について、**公募により選定された再利用パートナー（地方公共団体や事業者）が再利用**するスキームを構築。各再利用パートナーが、どのように再利用するか検討中。
- ・ユニバーサルデザインについては、昨年度実施したユニバーサルデザインワークショップにて有識者等から頂いた知見を踏まえた内容を反映。**検討段階では、全てをジェンダーレス型のトイレにすることも含め、既成概念にとらわれず思い切った取組を行うことも視野に議論**を行った。議論の結果、多様性を確保しつつ、バランス良く配置できるような施設計画とすることとし、従来型とジェンダーレス型両方のトイレを設けることとなった。

3－3．資源循環に関する検討状況

- 博覧会協会は、万博全体のサーキュラーエコノミーの実現、来場者の行動変容に向けた取組などを議論する場として、資源循環検討会を設置。また、大屋根リングの解体後リユースを検討中。
- 日本館においても、内外壁に使用するCLT（Cross Laminated Timber：直交集成板）を、会期後、公募により選定された地方公共団体や事業者が再利用するスキームを構築。

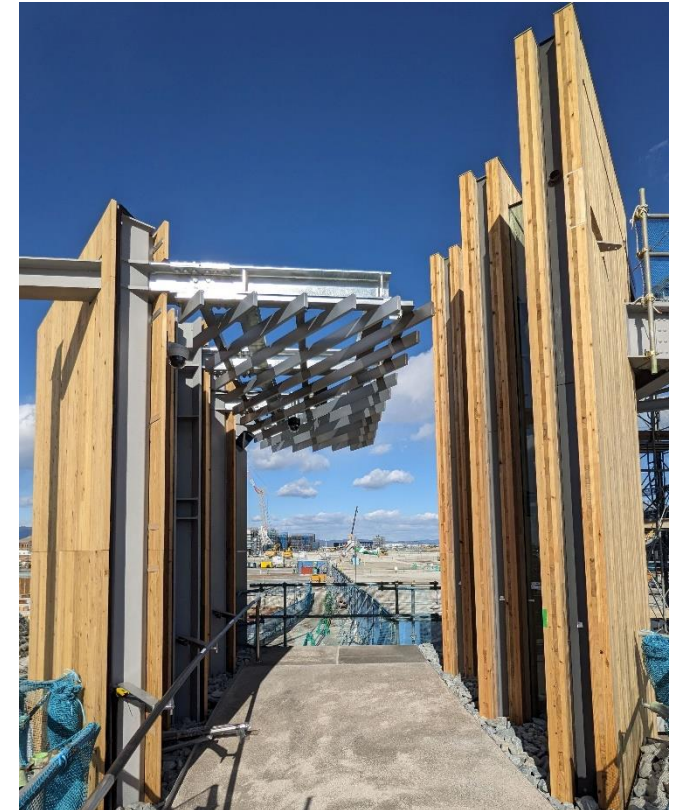
<日本館におけるCLT活用>

日本館使用予定の約1600m³のうち、1000m³を上限に貸与材、残りを購入材として想定。

- ① 関係省庁（内閣官房、林野庁、国土交通省及び環境省）が、公募により「CLT活用推進パートナー」を選定。
- ② 選定された推進パートナーは、日本館の整備にあたり、施設管理者（経済産業省）等と調整・合意した条件のもと、万博開催期間中に施設管理者に無償でJAS規格に適合したCLTパネルを貸与。
- ③ 万博開催期間の終了後、解体されて推進パートナーに返還されたパネルは、推進パートナーが公募により選定した「CLT再利用パートナー」が再利用を進める。



<モックアップの様子>



3 - 4 . ユニバーサルデザインについて

- 2022年度に引き続き、多くの来場者に楽しんでもいただける日本館とするべく、多様な主体から幅広く意見を伺う施工段階のユニバーサルデザインワークショップを実施予定。
- 2022年度にいただいた意見等を建築設計に反映しており、その現地検証（モックアップ）を中心に進めていくことを想定（「スロープ・誘導設備」及び「トイレ」を対象）。

【スケジュール等】

UDワークショップ	開催時期(予定)	検討テーマ
第1回:全体会議	2023年12月19日(火)	UDワークショップの目的とスケジュール等
第2回:モックアップ検証① (場所:日本館工事現場)	2024年 1月16日(火) または1月17日(水)	スロープ・誘導関係(床材、手すり・レールガイド・ラインガイドの設置位置・形状など)
第3回:モックアップ検証② (場所:会議室)	2024年6月(予定)	トイレ関係(内寸、仕上げ材料、配色、視覚障がい者用警告ブロック、フラッシュランプ設置位置 など)
第4回:全体会議	2024年10月(予定)	とりまとめ

意見等の反映状況

● 誘導関係

- ・誰もが一緒に移動し、同じ空間を楽しめるよう、会場全体を緩やかなスロープで連続的に接続。
 - ・シームレスな移動のために、連続した手すり、レールガイドやラインガイドを新たな設備として試験的に導入。
- ※レールガイド・ラインガイドとは、白杖を持った人がこれに沿って移動できる金属性の設備。

● トイレ関係

- ・できる限り多くの人が利用しやすいトイレとなることを目指し、多様性を確保しつつ、バランス良く配置できるような施設計画を実施。
- ・従来型のトイレに加え、近年のニーズであるジェンダーレス型のトイレを採用するとともに、ファミリートイレや介護利用に使えるサイズのトイレも導入し、様々な来場者に対応することを企図。

■ ワークショップ委員

- 委員長 三星昭宏 近畿大学名誉教授
委員 高橋儀平 東洋大学名誉教授
委員 尾上浩二 DPI日本会議副議長
委員 六條友聡 NPO法人ちゅうぶ代表理事
委員 鈴木千春 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議運営委員
- 委員 西村秀樹 滋賀県視覚障害者福祉協会
委員 渡部安世 NPO法人兵庫県難聴者福祉協会
バリアフリー部長
- 委員 大竹浩司 公益社団法人大阪聴力障害者協会
委員 吉川ひとみ アクセス関西ネットワーク
委員 小尾隆一 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会
常務理事
- 委員 太田まさ Life hospitality management service
委員 神徳佳子 NPO法人W A Cわかやま副理事長
その他オブザーバー13名

多様性確保の観点から、学識経験者をはじめ実際に障がいを持ちながら活動している有識者で構成。また、障がいだけでなく、LGBTQや子育て支援の有識者もアサインし、広義的なユニバーサルデザインについて議論することを念頭。

4－1．昨年度検討会議におけるご意見（展示・運営等）

【検討会議におけるご意見】

○展示

- ・捨てられてしまう物に光を当て、いのちや物を大切にする精神が伝わると良い。
- ・「人はいのちの一部である」という内包感や哲学が明確に伝わって欲しい。
- ・とっつきやすさやわくわく感も伝えられるとよい。日本館を出た後に頭に残るwow factorがあるとよい。
- ・コンセプトを具体化する際、「音」を活用する等の工夫を凝らし、日本を五感で感じさせる仕様としてはどうか。
- ・自分も循環の一部であり、自分の行動がどう影響を与えていくのかを考えさせるような展示体験もあって良い。
- ・外国人来訪者の視点で考えると、日本でしかできない体験や日本ならではのデザインが盛り込まれるとよい。
- ・人間本位ではなく、一見したところでは役に立たないもの、ただそこにあるだけのものもあって良いのではないか。
- ・手に取って体感できる製品の形に落とし込み、お土産として持ち帰れるような工夫ができるとよい。
- ・公募プロセスにおいては、要件を具体的に提示し、企業側が参画の余地を認識できるように進めていくことも重要。

○運営

- ・「日本らしさ、日本らしい表現」とは目に見える形とともに、おもてなしや気遣い、優しさといった心の部分。スタッフの教育がしっかりされるべき。
- ・バックヤードで行うメンテナンスの部分といった実態の姿を見せたら良いのではないか。



【対応の方向性】

○展示

- ・頂いたご意見を踏まえ、また、日本の最新のカーボンリサイクル技術を展示に取り込むべく、一部展示案の見直しを実施。**静的な展示だけではなく稼働する機械設備を多く実装し工場見学のような体験を提供予定。**また、日本館から生まれた何らかのものをお土産として持ちかえていただくようなことができないか検討中。
- ・**協賛については、4月にオープンした日本館のホームページにて告知。**要件についても募集要領として具体的な要件を提示し、**幅広い参画機会を設けた。**

○運営

- ・運営については、頂いたご意見を踏まえ、**一般来場者の案内、国内外来賓の接遇、ユニバーサルデザイン対応等が十分に行えるような体制の構築をめざし、運営実施計画を策定中。**
- ・**展示のメンテナンスを行っている様子も来場者が見られるように、建築構造や運営手法を検討。**

4-2. 展示に関する検討について

- 日本が誇る技術・文化等を発信し、より良い未来社会を実現していくための気づきの場となるよう展示設計を実施。
- 会場内で出された生ゴミが微生物の働きにより分解され、バイオガス発電により電気や、二酸化炭素、水に変換される。ゴミから生まれたものを用いて植物を育て、その植物を活用して物作りを行う展示を検討。

■全体コンセプト

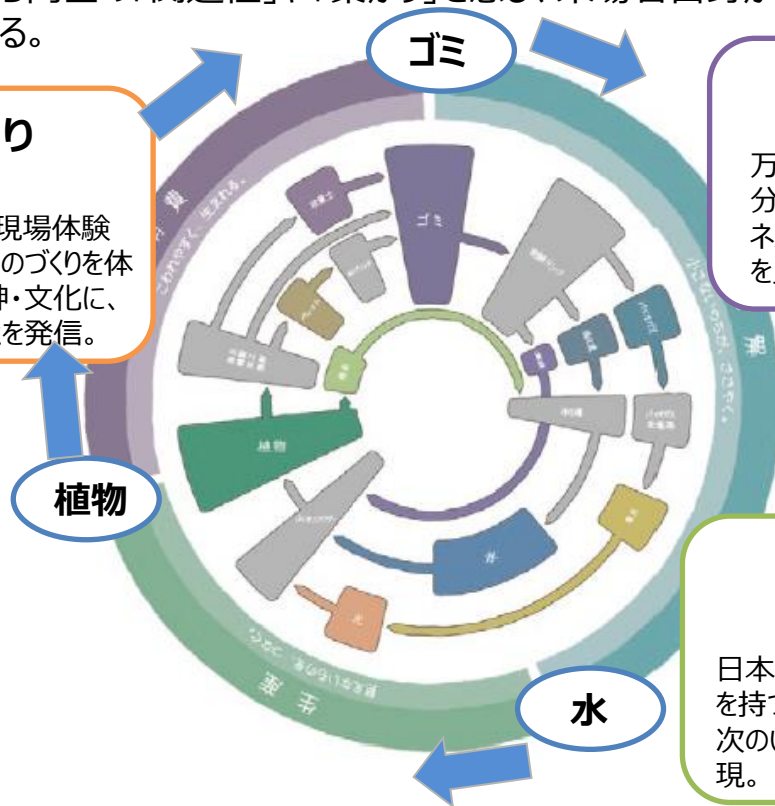
人に限らず、モノや動植物、有機物や無機物も、社会全体や地球自体も共通して、ひとつの役割を終えたとき、何かしらを受け継がれ、次につないでいくことによって新たな役割を獲得している継承プロセスを持っている。

その過程を意識することで、いのち同士の「関連性」や「繋がり」を感じ、来場者自身がいのちのつながりや循環の中で生かされていることを再発見する機会を提供する。

循環を見据えたものづくり

(こわれやすく、生まれる)

「分解しやすく作られる」ものづくりを実際に現場体験することで、日本に息づく循環を見据えたものづくりを体感。自然と調和し共生してきた日本の精神・文化に、循環型社会へのヒントが秘められていることを発信。



はかなく小さな生き物 (ちいさないのちが、ささやく)

万博会場から出された生ゴミが、微生物の働きにより分解され、バイオガス発電により、水や電気といったエネルギーに変換されていく姿を、実際に稼働する設備を見ることにより体感する。

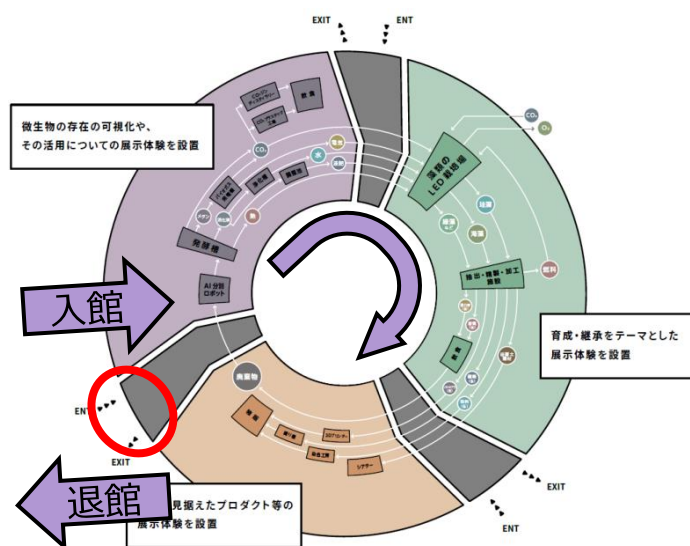
次のいのちへのリレー (見えないものを、つなぐ)

日本が誇るカーボンリサイクル技術や多様な可能性を持つ藻類が媒体となり、二酸化炭素や水、電気が次のいのちへとつながれていく様を象徴的な展示で表現。

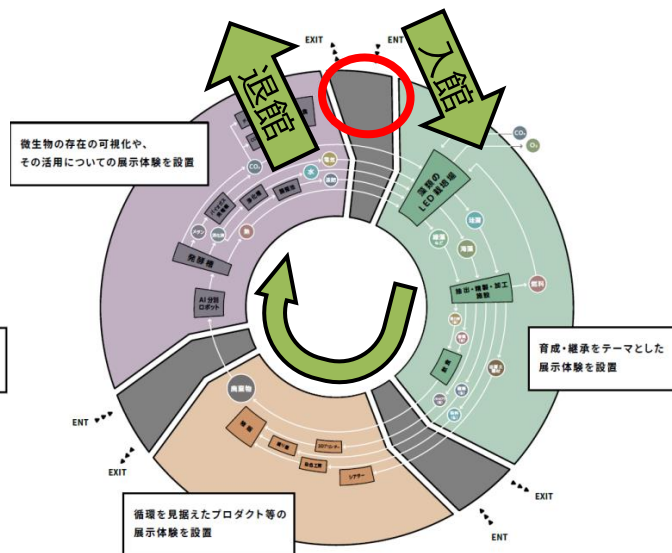
4-3. 運営計画の方向性について

- 今年度は、一般来場者及びVIP運営手法の検討を行い、警備、搬出入、清掃等を含むパビリオン運営実施計画の策定を実施。
- 日本館では「循環を見据えたものづくり」「はかなく小さな生き物」「次のいのちへのリレー」の3つのコンセプトに基づき、各テーマに沿った展示を検討。運営では、基本計画に基づき、3つの入口からなる複数の動線を設け、来場日によって入口を変更する事でマルチストーリーの展示体験を提供するオペレーションを検討。
- 各入口から一周する動線その他、一部分のみを見て短時間で退出する動線等も検討。

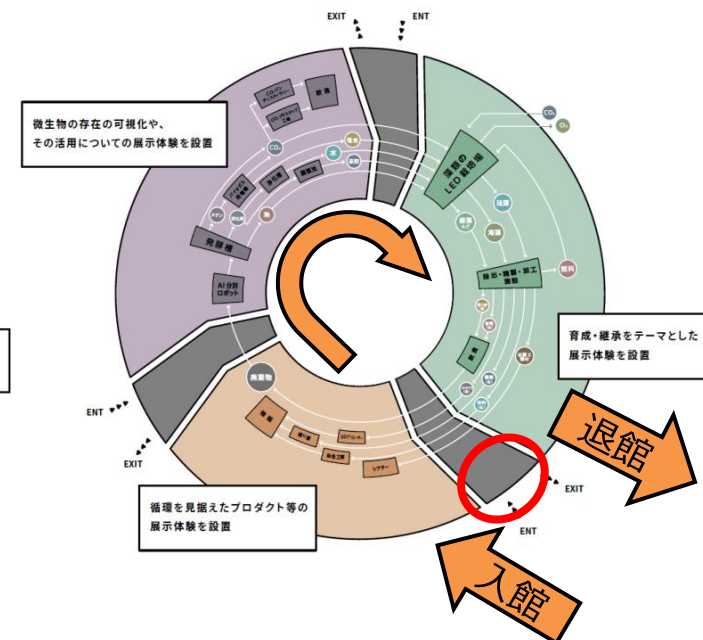
【パターン①】



【パターン②】



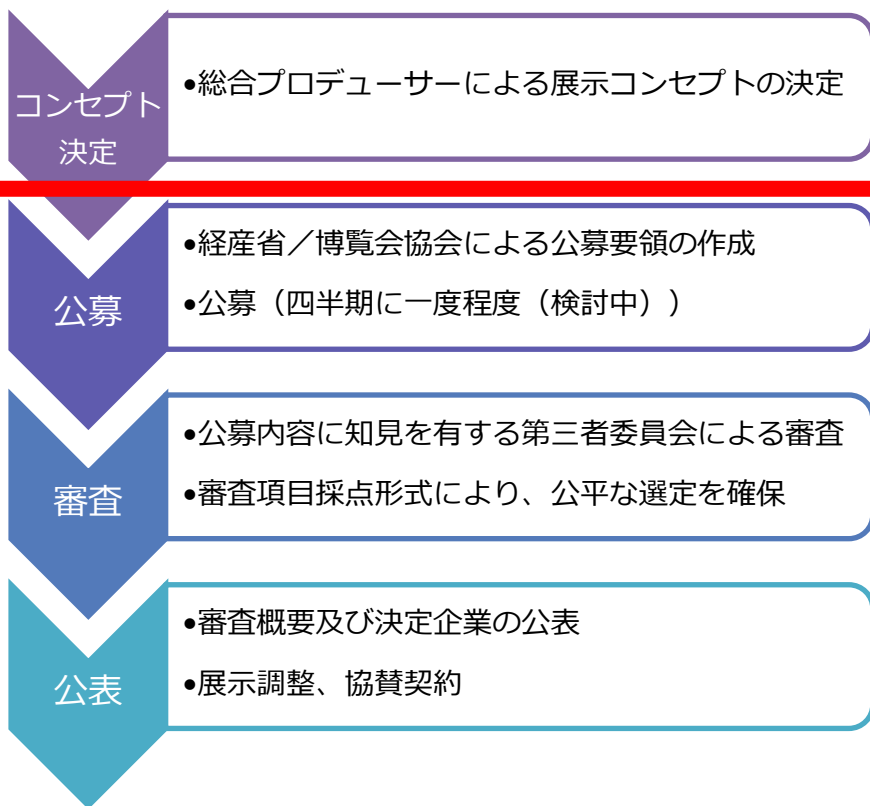
【パターン③】



4-4. 展示・協賛の事業者選定について

- 日本館における参画事業者の選定に当たっては、公募要領及び審査項目に従い、第三者機関が審査を行い決定するプロセスを設け、透明性・公平性を担保。
- 2023年6月に、ユニフォーム、トイレ設備機器等の協賛公募を実施。
- 今後も展示・運営関係の物品、キャラクターライセンス等随時公募予定。

【選定プロセス】



【協賛事業者の選定について】

- ・「2025年日本国際博覧会 日本政府館物品協賛（トイレ及び付随器具等）」

一般来場者用・賓客用トイレ及びそれに付随する器具：**TOTO株式会社**

- ・「2025年日本国際博覧会 日本政府館運営協賛（アテンダント用ユニフォーム及びアクセサリ）」

ユニフォーム素材提供・製作・運用：**東レ株式会社**

かばん提供・製作：**帝人フロンティア株式会社**

5 - 1 . 日本館のコミュニケーション戦略

- 日本館においては「広報」事業をより双方向性を強めていく意味で「コミュニケーション」事業としている。
- コミュニケーションを行う目的、時期、ターゲットを明確化した上で、適切な広報事業を検討。

WHY?	日本館を通じて、社会課題を自分たちのこととして咀嚼し、未来社会のつくり手としての行動変容を促す。 ○「循環」を通じて、豊かな未来社会をつくっていく ○日本の魅力（歴史、文化、技術）を伝え、ソフトパワーを向上する ○多様な価値観の理解を通じて国際的相互理解を促進する			
WHEN?	フェーズ1（2年前～500日前） 協賛企業の興味喚起	フェーズ2（500日前～半年前） 万博全体の機運醸成・日本館の認知拡大	フェーズ3（半年前～開幕） 日本館の理解促進	フェーズ4（会期中） 日本館の来場促進
	起工式 500日前	1年前	半年前 100日前	開館 閉館
	キーモメントを山場として活用しタイムリーに情報発信するとともに、継続的な施策を組み合わせる 加えて「日本館コンセプトを露出しやすくなる」「館内コンテンツを露出しやすくなる」という2点を意識してタイミングを注視			
WHO?	一般層	○サステナや環境関心層 ○経済関心層 ○万博との接点が多い層 ○技術や建築としての関心層 ○日本文化への関心層		○イベントごとに関心を抱く層 ○トレンドに関心のある層 ○マス層
	若年層	○学生（10代後半～20代）		○子ども（ファミリー層）
	海外層	○欧米中心の環境先進国		○東アジア・アジア圏
HOW?	理念・コンセプトへの理解・共感を強める 質的に有意義な関係人口を増加していく		パビリオンの具体情報を通じて来場を促進 同時に展示情報を使うことで新たに可能になるコンセプト訴求を併走	
WHERE?	メディア パブリシティ	○サステナ系メディア ○日本文化関連メディア ○ビジネスメディア ○訪日外国人系 ○テック/技術関連メディア ○建設/専門系メディア		○マスメディア ○バイラルメディア ○おでかけメディア ○エンタメメディア
	WEB/SNS	○月刊日本館		○日本館NOW（仮）

5 - 2. 日本館のコミュニケーションの活動方針

年	2023		2024				2025			
月	10～12		1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
フェーズ	フェーズ1 協賛社の興味喚起		フェーズ2 万博全体の機運醸成 & 日本館の認知拡大			フェーズ3 日本館の理解促進		フェーズ4 日本館の来場促進		
キーモーメント	▼11/30 500日前 ▼11/30 チケット販売開始		▼3/15 万博記念日	▼4/13 1年前	7/26～9/3 パリオリパラ		▼12/末 本体完成 ▼10/13 半年前	▼1/3 100日前 ▼2/28 工事完成	▼4/13 万博開幕	▼10/13 万博閉幕
活動方針	500日前に合わせて、協賛の進捗を発表。 日本館としての興味喚起を継続。		過去博との繋がりを意識したコンセプト訴求を検討	1年前をキーとした情報解禁、環境モーメントも意識。	オリパラ期間と重なることに留意しつつ、国際的な機運の高まりから海外へのPRも検討。		他パビリオンの情報も多くなってくる中で、徐々に来場促進を強めるPRにシフト。	社会的にもムードが高まる中、パビリオン予約に向けた期待感の醸成。	一般の関心も最大限に高まるタイミングとして、開館式・内覧会をキーとした来場促進を行う。	テーマウィーク・ジャパンデー等に合わせた情報発信、リビート来場を狙う。 レガシーについての発信で日本のこれから目指すべき社会像を伝える。
発信すべき情報	ティザーサイト活用		Web・SNS活用							
			本サイト公開	海外向け発信・交流		ユニフォーム発表（P）		バーチャル日本館		
			月刊日本館							
			建築コンセプト・展示コンセプト テーマ等の周知							
			建築コンセプト周知							
			協賛企業/団体の紹介		協賛企業/団体の紹介		協賛企業/団体の紹介		若年層ツアー（P）	イベントなどとの連動
	各種取材対応による周知		1年前プレス	半年前プレス		100日前プレス		開館式		閉館式

5－3．昨年度検討会議におけるご意見（広報・バーチャル）

【検討会議におけるご意見】

○広報・バーチャル

- ・バーチャルでリアルを全て代替できてしまう仕様だと、万博会場を実際に訪問する意欲が欠けてしまう。バーチャルで代替体験ができて、その上で本物の会場に行ったら、何らかの成果物を獲得できるなど、「貴重な体験」だと感じさせるプラスの要素が必要。
- ・バーチャル日本館は、ただ会場にカメラを置いてVRゴーグルで見せる、という形だと中途半端であり、リデザインが必要。何かwow factorを作って、アピールできたらいいのではないか。
- ・会期は184日もあるので、この中で、日本館においても、デジタル、オンライン、リアルも駆使したワークショップやサロンを毎日どこかでやって頂きたい。

○若年層への訴求

- ・一見難解なコンセプトやメッセージを、次の世代の人が思い出したときにターニングポイントになると良い。どのような形で若い世代が消化し、どう感じて、日本の未来をどうイメージするのかを考える契機になるとよい。
- ・万博チルドレンをはじめ次世代に託す想いが、来場者同士のつながりとしてお互いに目に見えるとなるとよい。



【対応の方向性】

○広報・バーチャル

- ・バーチャル日本館は、リアル日本館をベースとした空間構成を想定しつつ、実際に来場された時にも展示内容・演出との連動性や相乗効果が生まれるような施策を検討。
- ・単に館内の様子を見せるだけではなく、リアルでは補完できなかったメッセージ・表現等を映像やCGを効果的に用いてバーチャルならではの体験に昇華する設計を予定。
- ・会期中は、リアル・バーチャル日本館を通じて来場日によって異なる体験を提供出来るよう、オペレーションを検討。

○若年層への訴求

- ・若年層にもしっかりとコンセプトを理解頂けるよう、日本館を事前に予習できるようなコンテンツを日本館の公式ホームページ上に用意するべく検討中。

5-4. バーチャルに関する検討状況

- 協会が用意する「空飛ぶ夢洲」（オンライン空間上に夢洲会場を3DCGで再現したもの）に、魅力溢れるバーチャル日本館（仮称）を出展すべく、空間構成・インタラクション・コンテンツ等を検討。
- 協会のプラットフォームにおいて、どこまでの体験や演出が可能か検証を行うとともに、企画案の策定を進める。

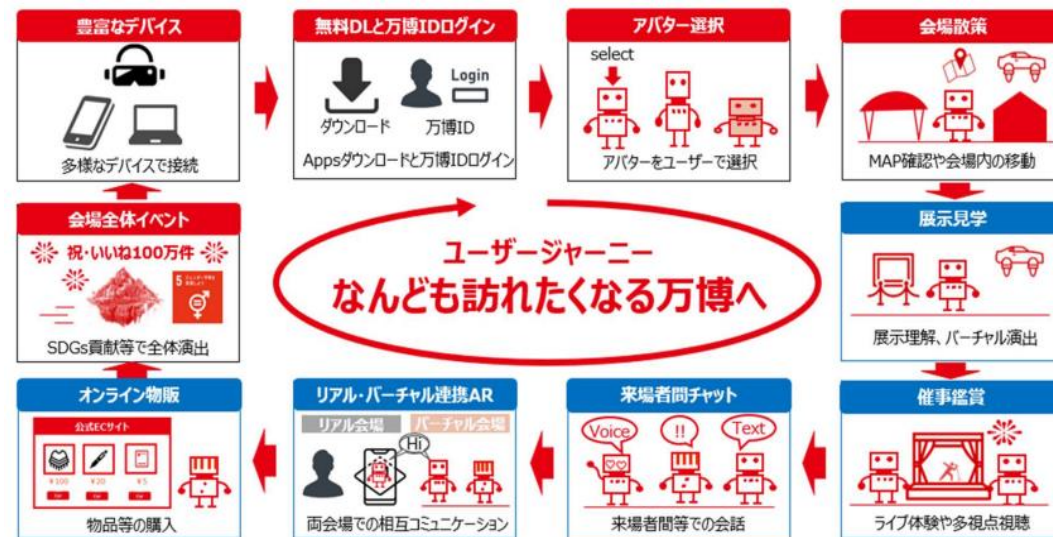
【バーチャル万博会場について】



資料提供：NTT

- オンライン空間上に3DCGで夢洲会場を再現。
- ユーザーはアバターを介してバーチャル会場を散策するとともに、各出展者が展開するバーチャルパビリオン内部に入り、バーチャルならではの特性を活かした展示や催事を体験できることを検討中。
- AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等の技術により、リアルとバーチャルが相互に連動する体験も、提供していく予定。

【バーチャル万博のユーザージャーニー】



- バーチャル万博会場のインフラにあたる分（赤色部分）は協会が製作・調達を行い、催事・パビリオンなどといったコンテンツにあたる分は出展者が製作・調達を行う構成。
- 好きな時間・デバイスで気軽に参加し、鑑賞・会話など実会場とは一味異なる体験を可能になることを想定。
- 日本館についてはバーチャル日本館（仮称）の出展に向け、博覧会協会が準備するバーチャル万博会場の仕様などの確認を行いつつ、魅力的なコンテンツとなるよう検討中。

6. 日本館のスケジュール

- 今後については、①建築工事の着実な実施及び予定通りの竣工、②展示コンテンツ制作及び展示工事の実施、③運営計画に基づくスタッフ採用、準備、④コミュニケーション施策実施・バーチャル日本館実装に向けた開発等を着実に遂行。
- ホスト国パビリオンとして、万博テーマである「いのち輝く未来社会の実現」を体現する魅力的なパビリオン出展を行っていく。

